

平成20年度
第3期 新南陽地区地域審議会
会 議 録

日 時 : 平成20年6月19日(木)
場 所 : 新南陽庁舎

【会 議 次 第】

- 1 開会
- 2 市民憲章唱和
- 3 議事
 - (1) 学び交流プラザ事業の進捗について
 - (2) 市の財政状況の説明について
 - (3) 意見具申に向けての進め方について
- 4 閉会

平成20年度 第3期新南陽地区地域審議会 会議録

日 時 平成20年6月19日(木) 開会 午前10時00分
閉会 午前11時50分

場 所 新南陽庁舎 4階41会議室

出席者 ・委員 11名 (欠席 4名)
吉岡 清忠、岸田久美子、友弘 育枝、吉賀 昭美、吉谷川 亮、
平岡 正夫、多田 道馨、山根 光正、福田 裕子、山崎 勝幸、
岸 義武
・事務局 7名
原田教育委員会教育次長、岩崎生涯学習課長、増本財政課長、
宮川新南陽総合支所長、三浦支所次長兼地域政策課長、足立課長
補佐、中村主査

資 料 会議次第
周南市の財政状況

会 議 議 事 録

1 開会

2 市民憲章唱和

3 議事

(1) 学び交流プラザ事業の進捗について

会長

最初に、教育委員会として、学び交流プラザをどういうふうにご考えておられるのかご説明いただきたいと思います。

教育委員会

学び交流プラザは、平成3年の新南陽市の総合計画の中に、将来的に新南陽市の文化振興の拠点として整備をすると位置づけられております。その後合併時、周南市の文化振興の拠点として、新南陽地区に学び交流プラザをつくるリーディングプロジェクトと

して位置づけられております。平成16年には、周南市まちづくり総合計画の中で、平成21年までの前期の基本計画の中に、学び交流プラザを整備すると位置づけられております。

どういったものをつくるかについては、学習情報の提供ができる、学習相談機能や学習支援機能を持った生涯学習センターを整備していこうというものです。

当初、新南陽市が約80億～90億のものをつくる計画をしていました。周南市になって、計画の見直し等がされ、公民館機能、あるいは図書館機能を複合化した施設で、事業費30億程度のものをつくったらどうだろうかと、検討されています。

教育委員会としては、独自に、関係する所管課で検討会議を作り、現有の公民館、図書館、社会文化ホール、勤労青少年ホーム、体育館、武道館、そうした一連の施設における今後の方向性や、今後新たにつくるとすれば、必要とされる機能等について調査、研究を行っています。

非常に莫大な事業費がかかる中で、今後は、できるだけ早く後期の基本計画の中に位置づけていきたい。合併特例債の期限が平成25年までなので、その時期を超えると難しい事業になってくと予想されるので、教育委員会としてはできるだけこの期間の中で整備していきたいと思っております。

委員

平成17年12月の議会で、市長は19年度中に方向性を出したい、と言われ、担当部署の方もこの場に何回か来られて、同様のことを言われました。もう青写真ができていないとおかしいのではないかと。

教育委員会

教育委員会としましては、この施設は当然必要な施設だと理解しています。ことがあるたびに学び交流プラザを整備していきたいと、協議の中で意見として申し上げています。

合併特例債の期限が平成25年までです。大きい事業なので、事業自体複数年になると考えています。着地点を考えていくと、24年、25年が建設。23年には基本計画、基本設計をしないといけない。22年には構想をまとめないといけない。遅くとも22年までにきちんとした青写真ができないと難しいので、その間に全力を傾けていきたい。

委員

学び交流プラザにこだわる市民が多いのは、合併時の説明会で、こういうものを作ってやるといわれ、すばらしい、夢があると思われた方が多いからだと思います。しかし、合併したら、うやむやになっており、旧新南陽市は合併してひとつもいいところがない、という意見が出ています。周南市の中でも旧新南陽市は文化的レベルが高く、周南市の中心になる文化施設ができたなら、合併してよかったな、頑張ろうと思う人が出てくるのではないかと。周南市のシンボルが、新南陽にできればいいなと思う人が多いのではないかと。

か。

委員

先日ロックタウンがオープンしました。今はオープンで人が多いと思うが、これから人がだんだん少なくなると思う。早く学び交流プラザをオープンさせて、その周辺で人が集まるようにしないといけない。

教育委員会

今ある施設は、それぞれが単体として、詰まって建っています。また建物も老朽化しています。けれど一番の問題は駐車場の問題です。複合化できるところは複合化をして、十分なスペースが取れる形で整備を考えていく。また、新しい商業施設等との連携も考えながら検討していきたい。

委員

新南陽市のときには、80億～90億を見込んでいて、周南市になったら30億というのはどういうことなのでしょう。じゃあ、新南陽市ときにはどんなプランを描いていたのか、周南市になったら、30億でどれくらいの規模の事業になるのか。旧新南陽市民としては納得いかない。鹿野や熊毛の交流プラザは、8億でできるから、先に着手したのかなと思ってしまう。徳山駅周辺の開発と交流プラザを比較されると、ウエイトとしては、徳山駅周辺の方に大きな力が動くような気がする。すべての面で新南陽が最後にされるのではないか。財源がないのも分かるが、本当に吟味していただいた上での事業計画を進めていただきたい。

教育委員会

新市建設計画のリーディングプロジェクトですから、やっていけると思っています。ただ、教育委員会サイドだけの事業として、地震等があったら学校が崩壊するという問題があります。現在市内に170棟の校舎、体育館があります。耐震化調査をしたら、耐震化率が40数%しかない。大きな地震がきたら崩壊するかもしれない建物が20棟近くあり、それらを整備する計画を持っています。全体をきちんと整備するとなると、見積もっただけで160億かかる。教育委員会としては、どちらを優先するのか。確かに、学び交流プラザはリーディングプロジェクトだから必要だと認識しています。ただし、同時並行として、子どもたちが毎日通うところである学校の危険なところを最初に直していかないといけないのではないかと。リーディングでなくても、そういった事業も併せてやっていかななくてはならない。いろんな財政上のからみもありまして、学び交流プラザがきちんとした計画として、周南市として公表できない状況にあることは非常に残念です。

会長

旧新南陽エリアの人にとってみれば、所属がどこであろうと徳山駅前の計画と同じよ

うなものです。教育行政の中で金がかかるから、徳山駅の方が先という論議は、住民感情としては納得できない部分がある。学校整備が必要なのはよく分かりますが、それは行政の優先順位の問題で、審議会の問題とはちょっと違うのではないのでしょうか。

教育委員会

先ほど申しましたのは、そういう財政事情もありますよ、ということで、決してリーディングプロジェクトを無視するというのではなく、リーディングプロジェクトはきちんとやっていきます。

委員

なくなったよ、やめた、ということにならないように、是非よろしくお願いします。

(2) 市の財政状況の説明について

会長

次に周南市の財政状況について、ご説明を受けたいと思います。市の広報や頂いた資料を見ても、市の税収は上がっているというのは、単なるマジックで、所得税から地方税に振り替えがあって増えたということが分かりました。どのような財政状況にあるかが、いろんな事に影響してくると思いますので、財政のほうからご説明をいただきたい。

財政課

財政状況ですが、資料（周南市の財政状況）に基づいて、基本的な考え方から解りやすく、順を追って説明させていただきます。

資料に沿って市の財政状況を説明

会長

市の財政担当として、公債比率が約20%に近いが、どのへんまでもつと思われるか。

財政課

今、公債比率は減っています。下水道事業が進んで、昔の借金も毎年2億円ずつ減っています。今は現実的には減っているが、これから大規模事業がでると、上向いていく。堅実な財政運営をするためには、将来の公債費を考えて、シミュレーションしながらやっていかなくてはならない。

会長

市債は悪いものではないと思うが、一般会計の中の必要経費が大きい。非常に苦しく

なるのではないか。

財政課

一般財源からすると、県内では周南市の公債比率はかなり良い方です。合併前から、下松市などと比べると基金が少ないことに不安を抱えています。

予算編成や見込みは、一般財源がどれだけあるか、これをどう振り分けるかによって、限られた一般財源の中で計画をしていくこととなります。

(3) 意見具申に向けての進め方について

会長

ありがとうございました。では最後に意見具申等について、話したいと思います。

学び交流プラザについては、もう具体的な案を作って着手しなくてはならない時期にきているので、有志の方でたたき台をつくり、教育委員会と協議しながら、作業をしないと間に合わないと思う。事業費のことなど、決まった後に話を聞くのでは物足りない。色々な意見を集約して、当たっていかなくてはならない。

委員

学び交流プラザに非常に興味を持っています。老人から子育てまでの相談機能を充実させてもらいたい。また、国際交流施設として国際交流の場にもなればいいと思う。新南陽公民館ではかなりの方が違反駐車をとられていて気の毒です。そういった問題もあるし、運営費についても考えなければいけない。

子育ての問題について、虐待が増えている。若い親が問題を抱えており、総合的に対応するなど、ソフト面にも期待している。

事務局

次回の日程についてはどうでしょうか？答申が秋口になると思いますので、それをどういう形で出されるか、アウトラインが決まってきた方が進めやすいのではないのでしょうか？

会長

全体が集まると負担がかかるので、分科会のような形で幾つかのグループで、前回は参考にしながら、何を答申するのかについて、進めていったらどうでしょうか。

委員

去年の例をみますと、10月に市長に答申しております。次回の審議会までに、一度市長との懇談をやったらどうでしょうか。

事務局

市長との対談の場があります。いくつかあるのでそれを利用したらいかがでしょうか。当面の課題として、地域審議会から後期の基本計画に対してどういう提言をするかをまとめることになると思います。各委員さんからいただきました意見をベースにして取りまとめていったらどうでしょうか。

会長

個人的には、徳山駅周辺整備事業は徳山地域の活性化のためには必要だと思うが、それをやるから、学び交流プラザが次というのは、新南陽地域の住民感情としては、納得いかない。そのへんを市長にわかってもらいたい。

調整は事務局の方でお願いしたいと思います。

事務局

昨年度も審議会とは別に勉強会という形でやらせていただいておりますので、ご理解いただいて今後もそういった形で進めていただけたらと思います。

会長

それではどうもありがとうございました。